

コミュニケーション研究会 第6次テーマ「日本の教育に関する提言」

『新社会人の方々へ』

佐 立 弘 臣

平成26年10月

平成26年10月16日

SEF コミュニケーション研究会
第6次テーマ…教育に関する提言

新社会人の方々へ

佐立 弘臣

人は自分らしく生きたいと思い、そして自分らしく生きる事が幸せになると考えている。しかし、残念なことに、自分の生きたい道が何なのか、自分には何がむいているのか、自分が解らない。そのために人は教育を受ける。

人は両親、家族からの「家庭教育」から始まり、小学校、中学校、高校、大学、大学院からの「学校教育」、社会に出て企業内教育などからの「社会教育」、人は生涯に渡り多くの教育を受ける。学校を卒業するまでの「教育」は「教えられて、直てられる」であり、社会に出てからの「教育」は「教えられて、直つ」そして「教えて、直つ」と変化していく。自分はどんな生き方をしたいかを高校教育が終わるまでに決め、大学を専攻し、社会人になり、夢を実現するのが本来の姿であろう。しかし、多くの人には自分が何をやるか、何をやりたいかが社会人になっても決まらない。現在、新社会人の3人に1人が3年間で転職する主因ではなかろうか。

決められない原因は各層の教育であることは論を待たない。各階層で教育改革を実行しなければならない。(具体的な改革については他の研究員資料参照)、改革には多くの時間と労力を必要とする。改革を待たずして毎年若者は社会に出ていく、若者はいつの時代でも「新人類」であり、彼らの価値観、行動基準は大きく異なる。今できる方策の一つは彼らの周囲の人々…両親、家族、教師、先輩、友人、上司、同僚…が「新人類」の若者達に経験を、失敗を、反省を、そして人生を…語ることはなかろうか。

昨年からは技術部門の新社会人(1～3年生)の方々と語り合った。そこで話したこと、感じたことを彼らに送った。内容は新しいことではない、「目標を決めて、実行すること」、「読書習慣を付けること」である。彼らが少しでも実行し、成長することを願うばかりである。

本文は従来、コミ研から発信している「提言」でも「提案」でもない。そこで題は「新社会人の方々へ」とさせていただいた。

*新社会人の方々へ

社会人のスタート、おめでとうございます。

まだ具体的な目標が決まっていないとのこと、そのことから話を始めさせていただきます。

1、目標の必要性と決定について

目標の話の前に今の日本の産業と労働環境の話をして頂きます。

1-1) 日本の産業の変化と対応について

皆さんが生まれた1990年頃の国民総生産額(実質GDP)は420兆円でした。その後少しずつ増え、2013年は530兆円になっています。国の状況は「経常収支」でみるのですが、「経常収支」とは「貿易収支」、「所得収支」、「サービス収支(海外旅行、特許費用)」、「経常移転収支(官民の無償資金協力)」の総計です。日本の「経常収支」は1990年では6.5兆円の黒字でしたが、2013年は3.3兆円黒字と半減しました。リーマン・ショック前の2007年には24.9兆円の黒字でしたので現在は7分の1ほどになっています。その原因は輸入額と輸出額の差である「貿易収支」は1990年では約8兆円の黒字でしたが、2013年は約1.1兆円の赤字になりました。海外に投資した利子、配当金などの「所得収支」は1990年ではプラス3.3兆円、その後徐々に増え2013年にはプラス16.5兆円と大幅に増加しました。このように現在の日本は「貿易収支」では赤字、「所得収支」で黒字という、「貿易立国」から「投資立国」になり、「成長時代」から「成熟時代」へと移行しているのです。

「貿易収支」の内訳を見てみますと1990年の輸入額は30兆円、輸出額は40兆円、まだ輸出が多く約10兆円の黒字でしたが、2013年の輸入額は81兆円、輸出額は70兆円、逆転し約11兆円の赤字になりました。輸出額は1.7倍になりましたが、輸入額が2.7倍になってしまったのです。これは主に円安、原油価格の高騰、大地震や津波で原子力発電所が停止したことによる燃料輸入の増加などと言われています。しかし、それだけでしょうか？

日本の輸出品目の推移を見てみますと、この15年間の輸出品目は自動車、部品、船舶などの「輸送機器」24%、半導体等電子部品、電気回路等の機器などの「電気機器」20%、原動機、電算機類の部分品などの「一般機械」20%、鉄鋼、非鉄金属などの「原材料製品」11%、プラスチック、有機化合物などの「化学製品」9%と構成品目は15年間、大きくは変わっていません。日本の製造業は自動車産業、電機産業とで44%と約半分、両産業で牽引されているのです。しかし、ご存知のように、現在、日本の電機産業(正確には家電、音響、計算機分野)は衰退しています。2011年、パナソニックが製造業で過去最大級となる7721億円の純損失に陥ったのをはじめ、ソニーが4566億円、シャープが3760億円、3社合計で1兆6000億円の赤字を計上しました。その結果、シャープは1万人規模の社員削減をする

ほか、パナソニックが3万6000人、ソニーやNECが1万人規模の人員削減を打ち出し、NECはすでに40歳以上の社員2400人が2011年9月末で退職をしています。このような状況の原因は、2000年代初頭に日本メーカーにリストラされた電機技術者が韓国や台湾などに就職し、海外の技術力が高くなったこと。部品の組み立てて出来る電機製品は有名ブランドでなくても性能は同じように製作出来るようになったこと、いわゆる電機製品のコモディティ（汎用品）化が進んだこと、そのため、非常に安いコストで製作できるようになったことです。その結果、世界の主要な電気機器、半導体メーカーは、自社で生産設備を持たないファブレス企業に移行しつつあるのです。日本も例外ではありません。残念なことに、ソニー、パナソニックなども海外生産、国内ファブレスに移行しつつあります。

日本の自動車産業はどうでしょう。海外生産が遅れていると言われていたトヨタ自動車も、最近、発表したトヨタの2014年度の計画生産台数は1000万台、しかし国内は300万台、海外生産700万台と海外生産比率を70%にしています。トヨタは雇用確保のため国内生産は300万台維持すると言っています。ホンダ73%、日産72%、スズキ62%と海外生産に移行しています。自動車産業も国内は雇用維持で、増産投資は海外なのです。さらに日本の自動車産業の懸念材料は昨年、2013年の「日本カー・オブ・ザ・イヤー」にドイツのフォルクスワーゲンの「ゴルフ」が受賞しました。日本車を押しよけ、輸入車が受賞したのは本賞34年の歴史で初めてのことであります。受賞理由は「モジュール化による新たな開発手法」が評価されたことにあります。車種の基本設計の共有化、部品の標準化などで、多品種の車を1ライン製造する手法は「トヨタの生産方式・・・just in time」をリードする手法と言われています。

ドイツでは2011年より「Industrie4.0」（第4次産業革命）というコンセプトで技術政策を推進しています。これは「高度技術戦略2020年に向けた実行計画」の一つで、今後10～15年を見据えた中期目標であります。主なるキーワードは「標準化」と「オープン化」であり、産官学の多くの企業や団体が参加し、新たなモノづくりの形を模索しています。

現在、日本の設備投資は東北震災の復興工事、福島原発の復旧投資、長期的には廃炉への投資、トンネル、道路、橋などインフラ整備への投資など、主に「維持・補修・復興」の公共事業です。日本の製造業の国内投資の動機を調べてみると、「維持・補修」が多く、「能力増強」は少なくなっています。国内投資に比較した製造業の海外投資額は2009年の40%が2013年80%と倍増しています。ますます海外投資が増えていくこととなります。今後、少子化が進み、人口が減れば税収も伸びず、維持・補修はあっても、新しい設備の投資は少なくなります。「Made in Japan」から「Made by Japan」になりつつあります。資源に乏しい日本は海外から材料を輸入し、製造業で付加価値を付ける「加工貿易」で、欧米に「追いつけ」「追い越せ」と発展してきました。2012年(内閣府資料)、日本のGDPの内訳はサービス業20%、製造業18%と、長年1位であった製造業は2位になり、「ものづくり」の中身は「ハード生産」から、エンジニアリング、

ソフトウェア、サービスなど「ソフト生産」へと移行しつつあります。

これからの日本を貿易立国として発展させるには、「新しい技術」「新しい商品」「新しい市場」を開拓していかなければなりません。皆さんはその時代に挑戦していくのです。

1-2) 日本の労働環境の変化と対応について

昨年、2013年、日本の人口は約1億2千万人、その内労働者数（非農林業）は約5200万人、内訳は正規雇用労働者が約3300万人、非正規雇用労働者が約1900万と全体の37%、約3人に一人が非正規雇用労働者となりました。非正規雇用労働者とは「パート」「アルバイト」「派遣社員」「契約社員、嘱託」の方々をいいます。非正規雇用労働者の大半は有期労働契約であり、計画的に非正規労働者を教育している事業者所は約半数にとどまっています。正社員の時間平均賃金は1900円、非正規社員は1200円というデータがあります。（厚生労働省）非正規雇用労働者の賃金は安く、ボーナス、将来の退職金はありません。非正規雇用労働者の割合は年々上昇しています。特に20歳から24歳の世代の非正規雇用労働者は1992年の11%から2013年32%と3倍に、25歳から34歳の世代の非正規雇用労働者は1992年の12%から2013年には27%と約2倍になっています。厚生労働省の調査によると派遣の40%弱、契約社員の30%は「正社員として働ける会社がなかった」という、不本意な就労になっています。過っても配偶者がパートで働き、子供にはバイトがありましたが、これらの収入は主に家計の補助でしたが、現在は家計維持のために非正規雇用労働者として働くことになり、生活が維持できない「ワーキング・プア」として社会問題となっています。私の現役時代にも非正規労働者はいました。しかし主に大きな仕事、多くの仕事が入ってきた時、正規労働者では処理できないため、非正規労働者と契約し、業務を処理しました。受注産業では仕事の繁忙をこのような方法で乗り切ってきたのです。現在も考え方は同じですが、違うのは非正規労働者が常駐化していることではないでしょうか。その理由は高度成長が終わり、不透明な時代に入り、経営者は正規労働者の採用を極力抑えます。また年金問題もあり定年が60歳から65歳と延長され、新人採用の数を抑えていることもあります。また非正規労働者の方々が正規社員より実力があり部門長も離せなくなっていることもあります。しかし、非正規社員は有期雇用ですからやがては辞めていきます。その結果、「技術の伝承」、「新技術、商品開発」をどうするか大きな課題になります。

皆さんの時代は高度成長を経験しない時代、「失われた20年」、「さとり世代」といわれ、この20年間、給料も、ボーナスも多く増えていません。「さとり世代」は過去約20年間ですから現在、40歳前半の方々、課長、部長候補の方々から皆さんたちが「さとり世代」と言えるでしょう。皆さんの「さとり世代」の10年後、20年後、30年後を考えてみましょう。

10年後、「さとり世代」初期の方がたは部長、役員となる時代です。皆さんが中堅として活躍することになります。この時期、団塊世代の方々は完全に職場から消えます。社会では女性の職場進出が進み、一般職から総合職、さらに管理職、経営者が増えていくでしょう。また、非正規労働者の保護が法律的にも充実され、子供手当、教育手当、住宅手当などいわゆるセフティーネットが充実されます。しかし財源確保のため消費税は10%以上になるのではないのでしょうか。また法律も整備され、「実力ある非正規労働者」は「正規労働者」に転向することが多くなります。また「非正規労働者」と「正規労働者」との賃金格差が少なくなり、企業としてはコストメリットが少なくなり、途中で契約をやめることができる解約メリットだけになります。

20年後、「さとり世代」初期の方がたは役員、経営者となる時代です。皆さんが課長、部長の時代になります。この時代、職能的年功序列の方々がいなくなり、非正規労働者からの転向組も含め「実力ある正規労働者」の時代となります。「実力ある非正規労働者」が「正規労働者」になる数も増えます。そのため、「実力ない正規労働者」は他部門に異動され、さらには「非正規労働者」になります。逆転するのです。多くの女性の管理職、経営者が現実になってきます。海外の方々も多く採用されていきます。ある意味、欧米型の「同一労働同一賃金」に近づくのです。

30年後、「さとり世代」初期の方がたが定年を迎えます。皆さんが役員、経営者の時代です。1960年代は定年55歳でしたが、1980年代に60歳に延長され、2000年代にはさらに65歳に延長されました。30年後、2045年頃には、男性の平均寿命は現在の80歳から85歳ほどに伸び、定年も70歳になるのではないのでしょうか。また退職金は毎月の給与の中で支払いをされているため、現在のような定年時の退職金はなくなります。日本の人口も1億人前後になり、少子化、高齢化がますます進み、税収が伸びず、定年後の年金も少なくなっています。GDPは高齢化、人口減等で伸びず、日本のGDPは2012年世界3位から、皆さんが定年を迎える頃、2050年にはBRICsに抜かれ、世界8位になるとのゴールドマン・サックスの予想もあります。以上が、これから皆さんが活躍する労働環境です。

1-3) 環境の変化と新社会人の対応について

皆さんの仕事の環境は下記のようになっている、またなっていくのではないのでしょうか。

- (1) IT社会になり、先輩が作成した過去の資料を使えば仕事は処理できることが多くなっています。たとえばお客様の名前といくつかの数字を修正すれば何とか仕事ができってしまう。計算機で結果(as-built)はすぐに出て、なぜそうなったかを考える習慣がない。
- (2) 採用する社員が少なくなり、新入社員が配属されず、良き「ライバル」が入ってきません。部門によっては10年以上、新人が来ないことがあります。入社した人より嘱託の方々が多くなります。

- (3) 教育にかける資金が少なくなったことで配属部門での「OJT」(On The Job)教育が多くなります。しかし、上司は仕事の処理に追われ、技術の伝承、新技術などに多くの時間が使えなくなりました。また、上司と職場以外で部下と自分の成功、失敗の体験、人生などの話をするのが少なくなりました。
- (4) 高度成長の時代は、多くの仕事が次々ときて、仕事を覚え技術を磨くことができました。それは、まるで泳ぎの知らない人をプールに投げ込み、泳ぎを、仕事を覚えてさせたのです。しかし、今は少ない仕事で覚え、技術を磨けなければいけません。水の少ないプールで泳ぎ方を、仕事を覚えなければいけなくなりました。
- (5) 私の時代は情報、技術を知っているかどうか、他の方々との違いが出てきました。また、文献などで探していて、有った時の喜び感動もありました。今は、インターネットで知りたいことを容易に得ることができます。便利にはなりましたが逆にいつでも読めるからすぐには読まない、また読んでも自分の中に定着しなくなりました。知った時の感動も少なくなりました。
- (6) 先に述べたように、これからは年功で賃金も、ポストも上がっていかなくなります。大企業に入り、正社員になればそれで良い時代ではないのです。「実力なき正社員」は「実力ある非正規社員」に代わっていくのです。
- (7) さらに難しいのは、これから、「現状の技術」「現状の商品」(Hot to make)でなく、「新しい技術」、「新しい商品」(what to make)を開拓していかなければならないことです。

このような時代に自分自身をさらに厳しく律することがないと、自分の技術、技能は伸びません。気が付いたときは「ゆで蛙」になり会社から出られなくなってしまうのです。「自分自身を厳しく律すること」とは「自分の目標を明確にして、実行計画を立て、着実に実行していく」ことです。

先に述べましたように、入社して2～3年は、先輩が作成した過去の資料、標準化資料、マニュアルなどで仕事を覚え、処理できるようになります。その後、これを続けていると、後輩に追いつかれ、非正規社員でもできる仕事であれば、皆さんは必要なくなります。最近、ブラック企業が話題になっていますが、誰でもできることをやらせ、だんだんとノルマを上げ、残業、休日出勤しないと出来なくなり、体調を壊し、退職に追いやられます。仕事をやる時は皆さんの方がいい結果、または皆さんしかできないレベルまでにならなくてはいけないのです。日本の電機産業は日本以外でも品質の良いものが安くできるようになり、コモディティー(汎用品)化で衰退しました。人も同じです、誰でもできる仕事であれば、賃金の安い人々に行くのです。「人のコモディティー化」とでもいうのでしょうか。

この世代で大事なことは、皆さんが「どのようなことがやりたいのか」「どのような人生目標があるのか」を決めることです。もちろん人生は仕事だけではありませんが、ここでは主に、仕事のことをお話しします。皆さんは「いつ自分の人生目標を決めたのでしょうか」。

学生時代にこれをやりたいと決めていたでしょうか。まだ明確でなければ、以下の方法からイメージが描けませんか。先生、上司、先輩の中から、このようになりたいと思う方がたからイメージする。同僚、学生時代の友人から、仕事を進める中で客先、業者など他社の方々から、また、ビジネス書、雑誌などから、自分の将来の姿を描いてみることです。

イメージ、目標が決まったら、漠然でもいいですから、また途中で修正していいのですから、定年までの10年毎の計画を書いてみましょう。そして、まず30歳までの目標は具体的に作りましょう。それを年計画、月計画、週計画と実行計画として、いつ、何をやらないといけないか決めていきます。このような話をするとうまくいく、楽しくないと言いますが、たとえば海外旅行を計画したとしましょう、皆さんは飛行機、ホテル、レストラン、などの場所、予定日、時間を決めていきませんか。自分の長い人生の旅、「どこへ、いつ」を自分自身で決めないで誰が決めるのでしょうか。まずは**目標を決め、具体的な実行計画を作成**することです。

自分の具体的な目標をきめたら、情報収集、選択、定着のスタイルをきめることです。私は梅棹忠夫著「知的生産の技術」(岩波新書)を30代の始めに読んで、知的生産に携わる人はこのように、日頃やっているのかと思い、参考になりました。この種の「知的生産」の本はたくさん出ています。本を読んで、必要な情報をいかに収集し、活用するか、自分自身のスタイル、方法を決めて、実行することです。

(1) 目標の中から、自分の興味ある具体的なテーマを決め、情報を収集する。

インターネットで読みたい資料、文献は見つかるでしょう。今はコレクションでなくセレクションが大事な時代です。日頃から、テーマを決め情報を収集、選択することです。また周りの情報だけでなく、広く経済、政治などともに、海外情報も得ることです。

(2) 情報の整理方法をきめる

選択した情報をいざという時に自身で活用できるように日頃から、情報を整理しておくことです。

(2) 自身で修得した又は修得したい「技術」について書く。

資料を読むだけでなく、読んで自分の「技術」として書くことで定着します。書いたものを機会があれば外部に発信することです。

「散歩のついでに、富士山に登った人はいない」といいます。目標を決めたら具体的な方法、期間(時間)を決め、綿密に計画を作成すること、そして実行あるのみです。

70年前、300万人が亡くなった戦争が終わり、焼野原から復興にあたった私の親達の時代(皆さんは祖父母の時代)、復興から世界2位までに高度成長していく中で働いた私達の時代、(皆さんは両親の時代)、そして今、皆さんが迎える世界と競争する実力社会。新しい技術に挑戦するのは若い皆さんなのです。皆さんのご活躍を期待しております。

以上

2、目標の実現方法・・・「読書習慣」について

今回は具体的に目標・登る山・を決めることをお話ししましたが、今回はそれを実現する方法・登る方法をお話しします。

2-1) はじめに

今年（2014年）4月に「1日の読書時間が「ゼロ」という大学生が4割を超えた」（全国大学生協同組合連合会（全国大学生協連））という報道に驚きました。インターネット、スマホで大学生は本を読まなくなったと言うのです。

こんな調査もあります。米国の市場調査機関「NOP ワールド」によりますと、1週間あたりの活字媒体読書時間の世界平均は6.5時間、日本は30カ国中で29位、下から2番目です。日本の読書時間は週平均4.1時間、1日約30分しか読んでいないとの報告があります。日本ではいかに読書習慣がなくなっているかわかります。

「米国製エリートは本当にすごいのか」という本、著者は28歳の時、会社を2年間休職して米国に留学した佐々木紀彦氏。その本の中に、「米国の大学はインプットとアウトプットの量がとにかく多い、日本の大学との差は読書量の差ではないか。4年間で読む本は年間120冊、4年で480冊とはんばな数ではない。そして、単に読むだけでない。内容をレポート、論文にまとめ、このことで、多くの知識・経験から上手く論理的につなげる能力が育成される。また自身の意見を持ち、討論、プレゼンを実施するので、知識・経験が整理され、上手く発信できる能力もつく。もちろん全て英語である。」と書かれています。皆さんは読書について如何でしょうか。

2-2) なぜ読書をするのでしょうか

「賢者は歴史に学び、愚者は経験で学ぶ」という言葉があります。

20代の皆さんは社会に出て、上司、先輩、お客様等から仕事を通じて「経験」で学ぶのが主ではないでしょうか。しかし、徐々に仕事になれ、仕事からの刺激も少なくなり、新たに覚えることが少なくなります。もちろん、新しい仕事もあり、失敗もあり、「経験」から学ぶこともあるでしょうが機会は少なくなります。職場の異動、転職などで、新たにチャレンジすることがあれば、「経験」で学ぶことも出来るでしょうが、多くの人は同じような仕事で自身の「経験」だけでは成長が止まります。20代から「歴史から学ぶこと」を心がけないと成長しません。

司馬遼太郎は「歴史とはそれは大きな世界です。かつて存在した何億という人生がそこに詰めこまれている世界なのです」（「21世紀に生きる君たちへ」）と言っています。「歴史を学ぶこと」は「先人の経験を学ぶこと」です。「歴史を学ぶこと」は読書だけでないでしょう。映画、講演会、講習会、新聞、テレビがあり、先輩、上司、友人達からの話などもあります。しかし多くは読書ではないでしょうか。本は読もうと思えば、一人でいつでも、簡単に出来ます。20代から読書習慣をつけることをお勧めします。

2-3) いかに関書習慣をつけ、血肉化するか。

ここでいう読書は「面白かった」で終わる読書ではありません。読んで皆さんの血となり肉となる読書です。プロである自身の専門の読書は必ずやらなければいけません。読書習慣がない方はまず自分の専門の本から始めましょう。専門の本を1冊選んでください。少し厚い本で古典がいいでしょう。図書館、友人から借りて読む本がありますが、本に金を惜しんではいけません。本は新書で800円ほど、ハードな本でも2000円ほどです。自分に投資しましょう。また、ここでいう本は「紙の本」です。「紙の本」で教育を受けた皆さんは「電子書籍」でなく「紙の本」を読むことで血肉化します。

本を読む方法はいろいろありますが、次の方法を試みてください。

(1) 読む

読んで重要と思うところは線を引く、囲いを入れます。また疑問、思いついたことなど本に書きこみましょう。本はきれいに読むことはありません。また2度、3度読んだときに引く線は色を変えます。

(2) 書く

読書ノートを作り、ノートの左ページに重要事項を書き写します。簡単に、まとめて結構です。右ページには思いついたこと、自分の意見、実践法などを書きます。面倒ですが左右ページは同時でなくてもいいですから書くことです。

(3) 話す・実行する

読んだことを人に話すこと、また実行できることは実行することで血肉化します。

2-4) 何を読むか・・・巻末リスト参照

「何を読んだらいいですか」聞かれましたが答えはむずかしいです。当然ですが、私が感動した本、影響を受けた本が、かならずしも皆さんには感動、影響与えないからです。いろいろな方々に聞き、参考のために推薦本のリストを作成しました。リストに沿って本を紹介しますので参考にしてください。

2-4-1) 教養書について

巻末の教養推薦本の多くの本は、現在、私が参加しているNPO法人シニア・エキスパートフォーラム(SEF)のコミュニケーション研究会(コミ研)のメンバーの方々が推薦していただいた本です。コミ研 松井潤吉氏が書かれた「若い理系・技術系の人に薦める書籍とその理由」も参考にしてください。

「リベラルアーツ」という言葉をご存知でしょうか。「リベラル」とは「自由」、「リベラルアーツ」とは「人を自由にする学問」、日本では「教養学/一般教養」と訳されています。「リベラルアーツ」は古代ギリシャ・ローマ時代から始まり、欧米の大学に引き継がれていきま

した。近年、日本では大学を卒業したら即戦力との要望で、多くの大学で「一般教養」学科を激減しました。その結果でしょうか、日本のビジネスマンは仕事の話、「How much」の話しかしない、出来ないと言われていました。

グローバル時代の現在、海外のビジネスが多くなり異文化の方々とは人間関係を広げ、深く付き合うには、お互いの国の歴史、文化、宗教など理解し、仕事以外の話ができることが必要です。「一般教養」が必須な時代なのです。

(1) 古典について

古典と区分しましたが、古典には哲学、古典文学、古典美術、古典舞踊、クラシック音楽など多岐の分野があります。古典は時代を超えて残った素晴らしい宝です。ビジネス書を10冊読むより、古典を1冊読むほうがはるかに得るものが多いという方もいます。古典は生涯を通じて、何度も読む本です。

*中国古典百言百話・文庫14巻

著書は人生をどう生きるべきか、人間関係はどう対処すべきか、人の上に立つ者はどうあるべきかなど、書かれている人間学です。病気、トラブルなど逆境に立った時に読むと、心に沁み、目の前が開けることがあります。また人生経験を踏んでから読むと、若い時に感じなかった言葉が歳を取ってから良く理解できます。

(2) 歴史について

歴史というと年号と事象の暗記ということが頭にあり、なかなか好きになれない方が多いのではないのでしょうか。これから海外の方々とは付き合うには、その国の歴史、文化、慣習など知らないといけません。まず世界史から入り、日本史を文化の流れ、人の流れということ読んでみるのもいいのではないのでしょうか。また下記のような本から入るのも一策です。

*ジャレド・ダイヤモンド著「銃・病原菌・鉄」

人類、ホモサピエンスがアフリカ大陸に誕生し、ユーラシア大陸から北米、南米大陸と広がり、太平洋の島々に移り住んでいきます。1万3千年前、各地で文化がスタートします。なぜ文化に違いが起きたのか、さらに西欧人がなぜ優位に立ったのか、著者は迫力ある筆致で解き明かしていきます。まるで推理小説のようでお薦めの1冊です。

(3) 日本人、日本文化について

日本人、日本文化を、語れてと言われても難しいです。日本人の資質を書いた新渡戸稲造の「武士道」、海外の方が書いたルース・ベネディクトの「菊と刀」、最近では土居健郎の「甘え」の構造があります。日本文化というと歌舞伎、能、落語、茶道、書道、禅など多くあげられますが、岡倉天心「茶の本」、海外の方ではブルーノ・タウトの「日本美の再発見」があります。興味ある分野から読まれたらいかがでしょうか。

*新渡戸稲造著「武士道」

著者は米国でキリスト者の倫理観の高さに感銘を受ける。また日本の精神のよりどころは何かと問われ、日本人の精神的な土壌は武士の生活態度や信条という武士道から醸成されたと考え、日本人の倫理感の高さ、国民一人一人が社会全体への義務を負うように教育さ

れていると「武士道」に著しました。本は1900年に英文で書かれ、逆に日本語に翻訳されました。

(4) 第二次世界大戦について

第二次世界大戦が終わり、来年で70年を迎えます。戦争を語れる人が少なくなりました。戦場での体験を話す方はいなくなったと言っていいでしょう。

現在、学校では現代史の教育は第二次世界大戦までいかず終わるのが多いと聞いています。戦争は終わっても、領土紛争、沖縄と基地、憲法改正、集団的自衛権、核・原発、歴史認識問題など課題が山積しています。日本の選択はどこにあるのか考えてみてください。

*半藤一利著「昭和史(戦前、戦後編)」

第二次世界大戦については多くの方が書かれています。また映画、小説にもなっています。昨年は「永遠のゼロ」が話題になりました。皆さんも見て、読んでいるのではないのでしょうか。著書は戦前、戦後編2冊で厚いですが、文庫になっていますので、読みやすい本です。しかし、著者は日本人です、見方が偏らないためにも、海外の方が戦争、日本を書かれた本も合わせて読むほうがいいでしょう。リストを参考にしてください。

(5) 小説について

ビジネス関連で小説というと経済小説と歴史小説になるでしょうか。経済小説では日航を書いた山崎豊子著「沈まぬ太陽」、昨年話題になった池井戸潤の「半沢直樹シリーズ」など数多くあります。歴史小説では私の現役時代では山岡荘八著「徳川家康」は経営者の必読書でした。山岡荘八は家康を平和の希求者として書き、経営者はそこに忍耐強いマネジャーの姿を重ねたのでしょう。歴史小説も多数あります。

*司馬遼太郎著「坂の上の雲」

「竜馬がいく」「関ヶ原」など司馬遼太郎の歴史小説を読んだ方は多いのではないのでしょうか。その中でも「坂の上の雲」をぜひ読んでいただきたい本です。明治になり目覚めた日本が西洋文化、技術を吸収し、日本を近代国家にすると熱い思いで若者達が坂を登っていく。著者は史実に基づき日露戦争を詳細に書いています。

2-4-2) ビジネス書について

ビジネス書は主に「情報」「How to」を得るための本です。情報は本以外でも、新聞、雑誌、インターネット、電子書籍などから得ることができます。しかし、情報を沢山集めても教養を身に着けることは出来ません。情報を知識にし、教養まで高めなければなりません。それには前に書きましたようにこれだと思える本は自分で購入し、何度も読み、ノートに書き、自分の考えを書き、血肉化することです。

(1) 情報管理について

現在は新聞、雑誌、インターネット、電子書籍、紙の本など情報はあふれています。沢山の情報からいかに必要な情報を選び、不要なノイズ情報を捨てるかが重要です。また選択した情報は活用できる状態でなければ意味がありません。情報選択し、活用する

自分のスタイル、方法を決めておくことです。

*梅棹忠夫著「知的生産の技術」

著者はノート、カード、カナタイプ、手紙、日記、原稿などを使い、情報をいかに選択し、活用するか、自身の実行している方法が具体的に書かれていて参考になります。ただ書かれたのは1969年。当時ベストセラーになりましたがあまりに古いので考え方を参考にして頂き、「知的生活(技術)・・・」の本はたくさん出ていますので他の本を参考にしてください。

(2) 人生計画について

前回の時に自分の進む方向「自分は何をやりたいのか」を決め、その計画を立案、実行の話をして頂きました。当然ですが、人生は思いがあり、それを計画し、実行しないと達成できないのです。初めに必要なのは熱い思いと進む方向を決めることです。

*小林司著「「生きがい」とは何か」自己実現へのみち

著者は精神科医。約500冊の参考文献から国内、海外の事例をあげ「生きがい」を論じています。いかに多くの方がたが「生きがい」について考え、書いているかです。「生きがいとは」・・・仕事、遊び、愛、出会い、生きる価値、自己実現など・・・複雑な構造になっています。「仕事は生きがいかな」「自己実現とは何か」を考えて見てください。

(3) マネージメントについて

マネージメントは管理職になってからだと考えるかもしれませんが、仕事は一人では出来ません、多くの方がたの協力で達成できます。顧客と、上司と、同僚と、他部署の方と、協力業者の方との連絡、思い違い、・・・トラブルはつきません。社会に出て悩むのは人間関係です。この種の本を20代で読むと参考になります。

*カーネギー著「人を動かす」

この本は70年前に書かれた本で、超ロングベストセラーです。著者の経験からの多くの事例をあげて、人を動かすにはどうするかを書かれています。書かれていることは「おだやかに話す」「相手の意見に敬意をはらう」「相手の身になる」「自分のミスはただちに認める」など・・・平凡なことですがなかなかできません。

(4) 経済について

毎日のニュースに為替の変動、株価の上下を大きく報道され、世界経済、日本経済の動向を取り上げています。経済は苦手という方は、新書で読みやすく細かく分かれている「日経文庫」から始めたらいかがでしょうか。仕事も原点は経済の結果なのです。興味をもって読んでみてください。

*堂目卓生著「アダム・スミス」・・・「道徳感情論」と「国富論」の世界

アダム・スミスはかの有名な言葉「見えざる手」の「国富論」を書いた経済学の父。スミスは政府の規制を撤廃し競争をすることで高度成長率を達成すると・規制撤廃・構造改革、どこかで聞いたことがありませんか。本著は「道徳感情論」を考察し「国富論」をやさしく解説しています。アダム・スミス思想の入門書です。

(5) スキルについて

仕事をやるうえで必要なスキルはたくさんあります。読む、書く、話す、それも日本語だけでなく英語で。またパソコンを使う、具体的にはエクセルで、パワーポイントで資料作成するなど・・・、それにプレゼンテーションがあります。やがて、修得した技術を論文、講演などで外部に発表するプレゼンの機会が出てきます。将来は会社を代表して話す機会が出てくるでしょう。

*「プロフェッショナルプレゼンテーション」

著者はプレゼンテーションの資料の作成方法など具体的に書いていますので、自身のテーマを決めて、本のようにプレゼン資料作成してみてください。それを課内、部内など社内ですら実際にプレゼンを試みる事です。最初からうまくプレゼンは出来ません。機会があればチャレンジして場馴れする事です。

(6) 経営について

20代ではこのテーマもまだ早いと思うでしょう。場当たり的に進むのではなく、戦略的にもの考え、プランを作成することは大事な事です。テーマを自分の人生を経営と考え、本を読んでみることをお勧めします。将来、新技術、新商品をいかに市場展開するかなどの課題に対応するのに人生戦略立案は良い経験となります。

*ジェームズ・c・コリンズ著「ビジョナリーカンパニー」

戦略の古典というマイケルポーター著「競争の戦略」があり、組織論であれば堺屋太一著「組織の盛衰」があります。ビジョナリーカンパニーは初版1995年に書かれ、現在、4巻目が発売されています。著者は世界の中で他社を圧倒し、長い間成長を続けている企業を調査し、「偉大な企業」「偉大な指導者」の条件を分析しています。興味ある分析は「適切な人材」は学歴、業務経験、専門知識より、性格と基礎能力によって決まると言っています。

(7) 健康について

社会に出ると環境が変わり健康を害する時があります。特に人間関係、仕事のトラブル、金銭的な問題、さらに個人的な問題がその原因となります。ストレスの発散はスポーツを勧めます。また家族、上司、友人など日頃から悩みを話せる人を作っておく事です。

*カーネギー著「道は開ける」

カーネギーはマネージメントの欄でも書きましたが、自己啓発書の古典です。読みやすいので、始めに読むのにはいいのではないのでしょうか。本書は多くの悩みの事例をあげて、その解決の方法を具体的に書いています。一度読んで、悩み問題が出た時に状況が似ている章を読んで参考にするのもいいのではないのでしょうか。

(8) 資産について

このテーマも早いかもしれませんが。20代はまず自己投資です。皆さんはやがて結婚し、マイホームの建設、子供の教育資金、さらに将来の定年後資金など考える時期が来るでしょう。それに備えて金融のしくみを知っておくのも必要な事です。

*岩田規久男著「金融入門」

本書は複雑でわかりにくい金融の基本用語や仕組みをていねいに説明しています。さらに貨幣、金利、物価、デリバティブやビッグバン、金融政策とマクロ経済など幅広く解説しています。新書なので入門書として読みやすい1冊です。個人の資産計画はそれからでいいでしょう。

2-5 いつ読むか

忙しくて、本を読む時間はありませんということでしたが、私の現役時代、片道 2 時間ほど通勤にかかりましたので、朝の電車の中は書齋でした。夜は疲れて読書は出来ませんでした。しかし電車の中の読書は目を悪くしますので薦められません。若い時は、なかなか朝はつらいです。朝型がいいか、夜型がいいかは、個人の生活スタイルですから、なんとも言えませんが、継続できる時間、方法を定めることです。前に自分の毎日の生活スタイルを決めること、と書きましたが、1日、24時間を分析してみて、30分でもいいですから、読書の時間をまず入れて実行してみることです。

それでも1日の中で読書の時間が取れないなら、仕事の時間に必要な文献、資料を「仕事をこなす」という意識でなく、「自分の技能、技術」をあげるという意識で集中して読み、書くことです。そのような意識で仕事に向かえば、貴方の中に残っていき、読書の面白さがわかり、読書の時間を作ろうと思ってくると思います。

読書は継続することです。それには目標を決めて、それを達成させるという、熱い熱意がないと継続しません。「**になりたい」という熱意こそ、継続する力だということを忘れないでください。

2-6 終わりに

「本を読まない人間はサルである」と言った方がいます。人類は文字を生み出し、文字を石に刻み、やがて紙に書くようになりました。その後、印刷技術が発明され、本が多くの方に読まれるようになりました。

これからは国際社会を舞台に真の実力時代になるのです。20代から「読書習慣をつける」ことが大きな力になります。読書という道具を巧く使って、素晴らしい人生を送られることを祈っております。

以上

教養に関する本					
No	分野	No	図書名	著者	備考
1	古典		中国古典百言百話	責任編集村山 孚・守屋 洋	*印SEFコミ研メンバー推薦*
		1	第1巻 菜根譚		
		2	第2巻 韓非子		
		3	第3巻 三国志		
		4	第4巻 孫子		
		5	第5巻 唐詩選		
		6	第6巻 老子・荘子		
		7	第7巻 論語		
		8	第8巻 十八史略		
		9	第9巻 漢詩名句集		
		10	第10巻 戦国策		
		11	第11巻 史記		
		12	第12巻 宋名臣言行録		
		13	第13巻 孟子・荀子		
		14	第14巻 大学・中庸		
2	歴史				
		15	世界通史	(中央公論社版20巻)	*
		16	日本通史	(角川書店版20巻)	*
		17	昭和通史	(文芸春秋社版13巻)	*
		18	世界文明における技術の千年史	アーノルド・パーシー	*
		19	銃・病原菌・鉄	ジャレド・ダイヤモンド	上・下
		20	文明の衝突	サミュエル・ハンチントン	*
		21	敗北を抱きしめて 第2次大戦後の日本人	ジョン・W・ダワー	上下*
3	日本人、日本				
		22	敵を作る文明、和をなす文明	川勝平太・安田喜憲	*
		23	日本人とは何か	山本七平	上下*
		24	日本的集団主義 その真価を問う	濱口恵俊・公文俊平	*
		25	トヨタの労働現場	井原亮司	*
		26	武士道	新渡戸稲造	PHP研究所*
		27	修身教授録	森 信三	*
4	第二次世界大戦				
		28	太平洋戦争とは何だったのか	クリストファー・ソーン	*
		29	GHQ焚書図書開封	西尾幹二	*
		30	もう一つのアメリカ史	オリバー・ストーン	*
		31	「昭和」という国家	司馬遼太郎	*
		32	転換期の日本へ	シ・マコーミック	*
		33	自由からの逃走	エーリッヒ・フロム	*
		34	昭和史(戦前、戦後編)	半藤一利	
5	小説・他				
		35	坂の上の雲	司馬遼太郎	8冊
		36	徳川家康	山岡荘八	27冊
		37	日暮砦	恩田木工	
		38	上杉鷹山	童門冬二	*
		39	1984年	ジョージ・オーウェル	*
		40	二十一世紀に生きる君たちへ	司馬遼太郎	*

ビジネスに関する本 (テーマ別)					
No	分野	No	図書名	著者	備考
1	自己管理				*コミ研推薦
	自分の生活スタイルを決める	1	知的生産の技術	梅棹忠夫	知的生活の方法・・・
		2	自己管理20章	メッド・セリフ	
		3	7つの習慣	スティーブ・R・コヴィー	
		4	[考える力]の鍛え方	上田正仁	
		5	知のソフトウェア	立花隆	
2	人生計画				
	自分の将来計画を作る	6	サラリーマンの時間表	石川弘義	
		7	史上最強の人生戦略マニュアル	フリップ・マグロー	
		8	自助論	スマイルズ	
		9	思考は現実化する	ナポレオンヒルズ	3冊
		10	生きがいとは何か 自己実現への道	小林 司	*
3	マネージメント				
	人を動かす方法を修得する	11	人を動かす	カーネギー	
		12	プロフェッショナルの条件	ドラッカー	
		13	リーダーシップ論	ジョン・P・コッター	
		14	名刺で仕事をするな	扇屋正造	
		15	1分間マネージメント	R・ブランチャード/S・ジョンソン	
4	経済				
	経済の課題を知る	16	戦後日本経済史	野口悠紀雄	
		17	マネー進化論	ニール・ファーガソン	
		18	暴走する資本主義	ロバート・B・ライシュ	
		19	アダム・スミス	堂目卓生	
		20	超マクロ展望・世界経済の真実	水野和夫/萱野稔人	
5	スキル				
	書く、話す、プレゼン、語学の習得				
	専門技術、語学などの本は別途	21	考える技術・書く技術	バーバラ・ミント	
		22	話し方入門	カーネギー	
		23	プロフェッショナル・プレゼン	土井 哲、高橋 俊介	
		24	質問力	斉藤孝	
		25	知の論理	小林康夫・船曳建夫	
6	経営				
	経営戦略を立てる				
		26	競争の戦略	マイケル・E・ポーター	
		27	ビジョナリーカンパニー (1~4)	ジェームス・C・コリンズ	
		28	企業参謀	大前研一	
		29	組織の盛衰	堺屋太一	
		30	知識創造企業	野中郁次郎・竹内弘高	
7	健康				
	ストレスからの解放	31	道は開ける	カーネギー	
		32	すべては単純に!	ロータリー・J・ザイバート	
		33	論語に学ぶ	安岡 正篤	著者により多くある
		34	仕事はたのしいかね	デイル・ドーテン	2冊
		35	空気の研究	山本七平	
8	資産				
	資産計画を作る。	36	金融入門	岩田規久男	
		37	貨幣とは何だろうか	今村仁司	
		38	お金は銀行に預けるな	勝間和代	
		39	実践・金融マーケット集中講義	藤巻健史	
		40	さおだけ屋はなぜ潰れないか	山田真哉	